

成溪會誌

1999.7 No.89



高等学校(旧制) 同窓会 会長就任

島尾 和男



二年前から森本隆会長のもとで、幹事を勤めてまいりましたが、このたび、はからずも後任として高等学校(旧制)同窓会会長に就任することになりました。後任の幹事長は同期の西村洋兄に就任して頂きました。私は昭和18年4月旧制高等学校高等科に入学、戦時下の修業年限短縮のため昭和20年3月に卒業しましたので、旧制高校卒業生としては在学期間は最短の僅か2年間に過ぎません。会長として至らな

い事が多いことを危惧しております。

幸い、成蹊会同窓会規定が一部変更され同窓会に顧問を置くことができるようになりましたので、宗像兄(1回理)、丹治兄(4回理)、河野兄(6回文)、谷岡兄(11回文)、岩崎兄(15回文)、森本兄(16回文)の諸先輩にお願いして顧問就任を快諾して頂きました。顧問の方々、役員、委員の諸兄始め、会員の皆様にお力添え頂いて、非力ですが全力を尽くして要職を勤める所存ですので宜しくお願い申し上げます。

来年(平成12年、2000年)は、旧制成蹊高等学校創立75周年の記念すべき年であり、且つ、戦後の教育改革により、旧制高等学校が廃止されてから満50年に当たります。創立60周年(昭和60年、故生野専吉会長、6文)を祝ってから十五年の歳月が流れました。会員の年令を考えますと、きりのよい年として創立を祝う最後の機会になるかと思われまますので、旧制高校同窓会に相応しい記念の行事と事業を行いたいと考えております。

これにつきましてのご意見やアイデアをお早めにお寄せ下さるようお願いして就任のご挨拶とします。

東京医科歯科大学名誉教授
(旧高・20年)

政治経済学部 同窓会 会長就任

瀧 秀彦



このたび、石坂先輩、戸塚先輩、高橋先輩の後を継ぎ会長に就任した。

高橋会長から突然会長就任の要請を受け、数々の抵抗を試み固辞したが、ついに抜き差しならなくなり、お引受けしてしました。

お引受けした以上精一杯努力しお役に立ちたいと思っているが、前任の実力会長お三方と比較し、力不足の私でこの大役が果たせるかはなほだ心配である。

政治経済学部同窓会は1回〜18回の卒業生で構成され、これからは人数の減少はあっても、増加することのない、大学の同窓会としては少々特異な同窓会である。

さて、同窓会とは何をする会なのであろうか。存在の意義、活動の在り方など改めて考え直してしました。

社会に出て学校の先輩や後輩に会うと心が和み、安心し、きわめて親近感を覚える。会社に学校の後輩が入社して来ると、どんな奴が来たのか顔を見たくなり、話しがしたくなる。この思い、この繋がりは何なのだろうか。

同窓会の大切さとは、おそらく時に集い、語り合い、仲間の意識を高め、心の安らぎを求めることであらう。

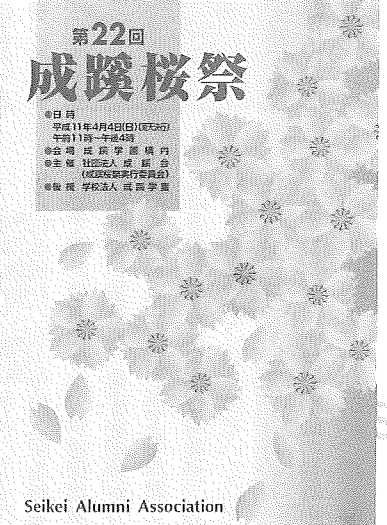
また、現在まで幸せに生きて来られて、自分がここに存在し得ていることにおいて学生生活で得たものがどれだけ役立っているかを確認する事でもあらう。その意味でお世話になった学園に卒業生として何が出来るかを考えてみたい。

この様なことを中心に新任の委員の方々と語り合い、力を合わせて具体的な活動を進めて行きたいと考えている。今年はおたかも成蹊大学創立50周年を迎えた年である。

恵比寿ガーデンプレイス取締役社長

(政経・31年)

同窓の つどい



Seikei Alumni Association



中・高ウィンドオーケストラ



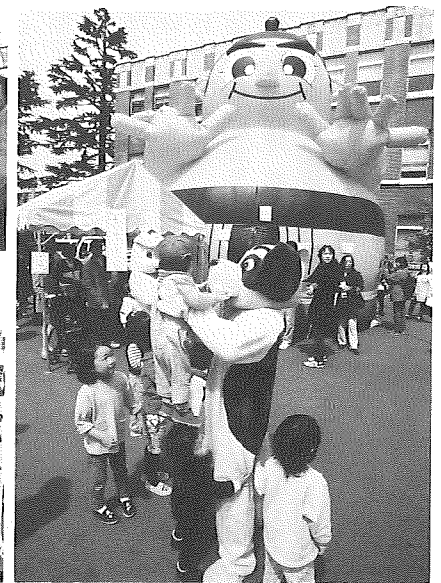
OBオケ・同合唱



小学生和太鼓



旧制高校寮歌



エアートランボリン



コンパルサウンズ



ケンタッキーキャピナース



無事閉会

で、勿論成蹊関係者も含まれているが、大部分は近隣の方々メンバーである。模擬店では日頃公園で育成しているハーブや山野草の苗、草木をアレンジした清楚な花籠や押し花葉書などが売られ、人気を博していた。

「お祭り広場」と称したトラスコンでは、金魚すくいやヨーヨー、駄菓子、ポップコーンの販売というレトロな雰囲気と、パソコンゲームというハイテクな雰囲気とのミスマッチが、小学生に大受けであった。

また史料館は常設の学園史料閲覧以外に、卒業生を中心にした写真展が開催されていた。この史料館二階バルコニーから眺

める桜は格別で、外の喧噪を一時離れ、しばし写真の美しさと自然の美しさのハーモニーに酔って頂くのも一興である。さらに来年は大学美術クラブの参加希望も既にかけているという。沢山の作品発表を期待したい。

馬術部による馬場での乗馬サービスは、相変わらずの人気で、入場券は瞬く間に無くなってしまったが、今年は武蔵野市の障害者の方々を招待したということである。楽しんで頂けたらうか。

る中継、近隣への金券配布などをしてきたが、これからの一層地域と一体化したイベントとなるであろう。そのためにも桜の若木の植樹と育成にもう少し力を注いだ方がという声も今年に聞こえた。成蹊の桜は、井の頭公園の桜と並んで東京の桜開花の参考にもされるようである。しかし樹齢八十年程の桜もあり、最近では雪や台風で折れる枝も少なくない。祭りはますます盛んになっていくが、本来の桜が寂れていっては何にもならない。新しい世紀を迎えるにあたって、新しい生命を桜にも与えたい。

布川純子(文・52年)

今年は桜前線の動きが早く、桜祭まで桜が咲いているかどうかが一番の関心事であった。しかし、皆の願いが通じて満開の桜の下で祭りを開くことが出来た。

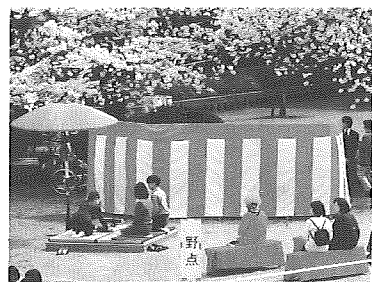
構内の会場は、例年通りイベント広場での演奏と演技を中心に繰り広げられた。出演者は小・中・高・大の現役と旧制高校も含めた卒業生という幅広い年齢構成で、司会はテレビ朝日アナウンサーとして活躍中の田中滋実さんが担当した。

その賑やかな本館前舞台を囲

むように配置されている模擬店テントでは、あちこちで長蛇の列が出来ていた。模擬店出店者は、大学クラブや学部同窓会、ゼミなどの関係団体が主なものであるが、地域に親しまれている店舗や、市民団体などでも条件が合えば出店可能となっている。今年は全部で十六店を数えたが、中でも異色だったのが「生きものばんざいクラブ」である。この団体は成蹊学園協会の「木の花小路公園」の公園維持管理や草木の繁殖を市長から委託されている公園ボランティア



チアリーダー



野点



正門前